未来に種蒔く「苅田みなと博士」

川寄　哲也[1]・渡邊　謙二[2]

[1,2]九州地方整備局　苅田港湾事務所　総務課（〒800-0315 福岡県京都郡苅田町港町 28-2）

広報活動の一環として実施した「現場見学会」について，地元のボランティア団体との協働や工事の受注者と一体となった取り組み内容を報告します．とりわけ，小学生を対象に現場見学会参加者を「苅田みなと博士」として認定・表彰し，将来にわたって港の情報発信者となっていただくことを目指しました．

これまでの広報はどちらかといえば「伝える」になりがちだったものを，「伝わる」に変えるものです．相手が知りたいこと，聞きたいことに的確に答えていく．結果として，国が行っている港の整備事業の内容やその効果が，生活に直接結びついていることを知っていただくものです．

以下に報告する取り組みが，今後の広報活動の発展に寄与することを期待しています．

Key Words: *「伝える」から「伝わる」へ，「苅田みなと博士」，連携・協働，歴史の継承*

1.　「伝える」から「伝わる」へ

これまで私たちの広報活動の取り組みでは，どちらかというと国民に仕事の内容を「伝えたい」との思いが優先して行ってきました．もちろん，そのことは大切なことですが，「伝えたい」内容が広範囲に，かつ継続的に長く広めるためには「伝わる」ことが大切です．相手の知りたいことや聞きたいことを的確に答え，情報の受け手に対して主体的に「誰かに伝えたい」と思ってもらうことです．これが「伝わる」ということです．

苅田港湾事務所では，地元のボランティア団体との協働や工事の受注者と一体となって，この「伝わる」を念頭に置いて広報活動を行ってきました．

写真-1　苅田みなと博士認定証授与集合写真

2.　「誰かに伝えたい」

2020 年 3 月 24 日，苅田港湾事務所に手紙が届きました．苅田町立苅田小学校からのお礼状です．苅田小学校五年生が，1 月 29 日に「目指せ！苅田町観光大使　ふるさと学習」と銘打って町内を探索し，その中で当所が港の学習と見学のお手伝いしたことへのお礼です．

（お礼状抜粋）

～前略～　ふるさと学習にご協力いただきまして，誠にありがとうございました．自分たちが住んでいて，よく知っていると思っていた町に，自分たちが知らなかった苅田町の歴史や史跡，伝統や受け継がれてきた想いがあったことに気づき，子どもたちは驚き，興味津々で学習を進めていきました．学習を進めていく中で，「苅田町にこんなに魅力的なところがあることを誰かに伝えたい」という思いを持ち，見学の内容を一生懸命にまとめて四年生に向けて伝えることができました．今回の学習を通して子どもたちは苅田町の魅力を発見し，自分たちのふるさと苅田町をさらに好きになることができたと思います．～後略～

このお礼状は，私たちが取り組んだ「現場見学会」の実践に確信を与えるものでした．

3.　港の学習と現場見学

3ー1　小学生みなと見学会
～苅田みなと博士～

基本的な現場見学会の内容は，講義（座学）を受けた後に現場見学を行う行程となっています．全体時間や構成は事前調整で変更する場合もあります．

【概要　全体２時間】

・講義（30分）　事務所会議室
　「港の大研究　くらし・産業を支える苅田港」

・港内見学（70分）　用船
　乗船　→　神ノ島　→　新松山地区　→　南港地区　→　本港地区　→　下船

・苅田みなと博士認定証授与　記念写真（10分）

図-1　港内見学ルート図

(1)　講師は所長から若手職員まで誰でも

講義内容は，「港の大研究　くらし・産業を支える苅田港」と題して，事務所作成のパワーポイント資料で行います．具体的な内容としては，①暮らしを支える港，②港の施設，③港で働く船，④苅田港の現在となっています．

苅田港全体の大型航空写真や防波堤の模型を使い，港がどうなっているかを空から海の中からと想像してもらいます．講師は，所長・課長や係長，係員など誰でもできる内容となっています．そして，人口約３万７千人の町が港を通じてどのように発展しているかを学習します．

写真-2　講義内容の様子

(2)　高度な講義内容

【苅田港と苅田町のかかわり】

・2019年度の苅田港の貿易額は，約８千９百億円．特に輸出額は九州では博多港に次いで２位（全国 14 位）と高い水準．

・世界に誇る自動車産業など港周辺に企業誘致も進み，地方交付税交付金の不交付団体として継続．→　港の存在が地元の地域経済を豊かにしています．

・苅田町章　1955年に合併を記念して制定された町章は，苅田町の「苅」を図案化し，太い横線は「港・苅田」の繁栄（出船・入船）を象徴．（苅田町ホームページ抜粋）→　港の役割が町のシンボルマークにも刻まれています．

図-2　苅田町章：小波瀬・白川村合併を記念に制定

(3)　「苅田みなと博士」に認定

講義を受講し，船で港内見学を終えた小学生は，「苅田みなと博士」として認定します．未来を担う小学生に，将来にわたって港の情報発信の役割を担当してもらうためです．未来に種蒔く取り組みです．すでに 115 人（2020年３月現在）の「苅田みなと博士」が誕生しています．

写真-3　室内講義と海上現場見学

図-3　認定証　表　　認定証　裏

「苅田みなと博士」となった小学生は，学校へ帰ると報告会を開催し，経験したことをとりまとめ，学習会で全体に発表しています．早速の役割発揮です．学校内で「苅田港新聞」と銘打って発行した学校もありました．その中には，「私達は港の見学で防波堤について学んだ．今から話すことは防波堤のことについてだ．防波堤は港

の外から来る波を小さくして，港の中の波を静めるという役割をしているんだ．防波堤が波から港を守ってくれているそうだ．私は勉強で防波堤とはどんなに大切な物かわかった」など，たくさんの意見や感想，自分の考えが書かれていました．講義の内容はしっかり伝わっています．

写真-4　子どもたちが書いた感想とお礼の言葉

3ー2　大学生現場見学会
～担い手確保に向け大学や建設業界と連携～

2019 年 10 月 30 日には，一般社団法人日本埋立浚渫協会主催による「第 25 回うみの現場見学会」が苅田港で開催されました．九州では 3 回目の開催です．九州工業大学生 27 名を招き，苅田港湾事務所が発注している苅田港の現場を浚渫作業船に乗船し，体感していただきました．

写真-5　作業船の浚渫状況と現場見学の大学生

浚渫工事の受注者は，港湾における ICT 技術の導入状況を知ってもらうために西日本工業大学生等を招いて，工事中の現場見学会を開催しています．建設現場の生産性向上や働き方改革が，ひいては担い手確保につながるからです．実際に現場を見てもらうことで学生からは，「浚渫のしくみや係わっている人の役割についてよく理解できた」「海の現場はなかなか見る機会が無いと思うので良い経験になった」「浚渫のスケールの大きさが理解できてよかった」といった感想がよせられています．また大学の教授からも「講義や進路指導に役立たせていただきます」とのお礼のメールが届きました．

3ー3　外部のスポークスパーソン（代弁者）の育成

「苅田ガイドの会」（苅田町の観光ボランティア団体：会員約 40 名）は，4 つの部会（自然・文化・歴史・産業）を設けて活動しています．その中で産業部会は，苅田港の役割と発展をガイドしています．毎年，苅田港湾事務所で港の最新情報の学習と浚渫現場の見学会を行い，ふるさと学習の企画などを取り組んでいます．まさに外部の方に，積極的に港の役割を広報していただいています．連携と協働の取り組みの典型がここにあります．また，地元で地図イラストを趣味としている方に依頼し，港を拠点とした独自マップを作成してもらい，事務所の案内にも活用しています．すでに外部のスポークスパーソン（代弁者）が育成されています．

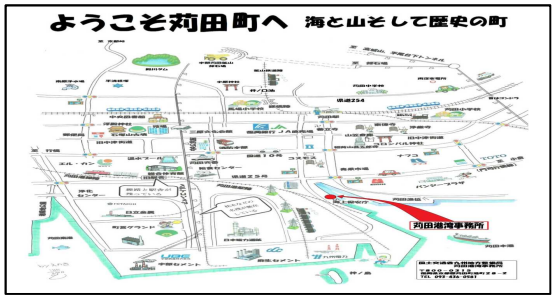

図-4　イラストマップ：この他にも 2 種類

3ー4　プレス投稿と「HOT NEWS」送付

こうした一連の取り組みは，事前のプレス投稿や，実施後の九州地方整備局内情報交換紙「HOT NEWS」への投稿とつながっています．

また，公共事業が地域の人に喜ばれ，社会に貢献しているという「成功体験」を職員自身が経験することで職員のモチベーション（動機づけ）の向上にも寄与しています．

【2019 年度 「HOT NEWS」に投稿した題名（抜粋）】

- 将来の「シビルエンジニア」へ（九州工業大学, 福岡大学）（2019.5.16~17）
- 昨年に続き！ 苅田みなと博士ぞくぞく誕生！（鞍手町西川小学校）（2019.10.17）
- しっちょうかん？ 苅田港 ～町内小学校にてふるさと学習講師続いております～(馬場小学校)（2019.10.23）
- ～うみの現場見学会～ 次世代を担う技術者たち（九州工業大学）（2019.10.30）
- 建設産業で働いてみませんか？ ～西日本工業大学の学生達にこの思い届け！～（2019.12.24）
- 「ふるさと学習」港が支える苅田町 ～苅田小学校 5 年生が港の役割や重要性を学習～（2020.1.29）
- 期待の若手が熱弁!!（西日本工業大学）（2020.2.6）

図-5　読売新聞外数紙の見学会掲載記事

4. つながる，つなぐ

(1) ここから苅田の未来が始まった

1938 年 10 月に苅田港修築計画が閣議決定され，苅田港築港（修築工事）が 1939 年 11 月 6 日に基石投入で始まりました．基石投入から約 80 年の時間が経過し，苅田港は大きく変貌しました．

港が変わっていくことで，明治時代は塩田中心の農漁村だった苅田町は，大正時代にセメントの町となり，1955年以降は電力の町として，現在は自動車産業を中心に陸海空の交通結節拠点都市として引き続き発展しています．

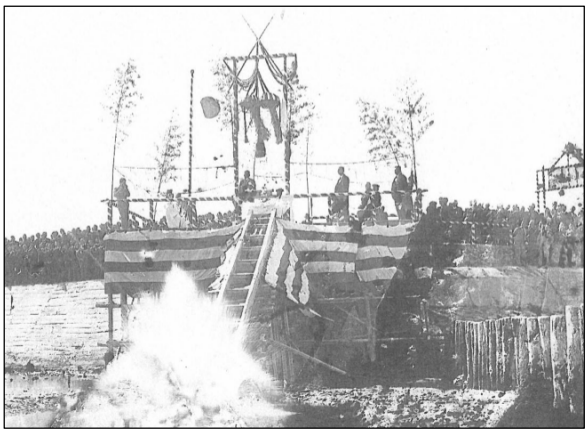

写真-6 基石沈奠（てん）の瞬間（ひらの写真館）

(2) 港の現在・過去・未来の継承

一方で，歴史の彼方に忘れ去られてしまう事象もいくつかあります．時代とともに施設の老朽化等で壊されていく社会資本もあります．時代の先端技術だけでなく，こうした歴史的財産にも目を向けて広報を進めていく必要があります．

そこには，父や母，多くの祖先の人生があります．港の学習や現場見学を通して，海から見る自分の町の姿はこれまでとは違って見えることでしょう．「現場見学会」は，歴史や自然・文化などの継承にも関連しています．港の現在・過去・未来を継承していく必要があります．

写真-7 1960 年代まであった道中（みて：砂州の意）
現在の神ノ島から苅田発電所方向を撮影

(3) 誰もが安心して心豊かに暮らせる町

誰もが安心して心豊かに暮らせる町をめざして，港の整備が進められています．現場見学会は，参加者に学習と体験を現地でしてもらう貴重な経験です．数字的には，参加者の数はまだまだ僅かです．しかし，現場見学会参加者の港に対する期待は，点から線，線から面という広範な人々へつながっていく可能性があります．

とりわけ，地元小学生の「苅田みなと博士」育成は，時間軸の点からも未来につなぐ取り組みとして大切です．これからは，新型コロナウィルス感染拡大防止のため，新たな生活様式に対応した見学会のあり方を工夫していく必要がありますが，未来に種蒔く「苅田みなと博士」育成をはじめとして，引き続き港湾の広報活動を強化していくこととします．

写真-8 作業船上での集合写真

(4) あなたは港の未来をどう描きますか

苅田の町は，豊玉姫伝説や古墳，三角縁神獣鏡やナウマン象化石の発見など，古代ロマンと美しい自然・文化が継承されている町です．

そして，港の発展を中心にして，近代産業が発展し，それらがうまく融合しています．港周辺への企業誘致も進み，製造業の製造品出荷額等は，九州では大分市，北九州市に次ぐ第 3 位となっています．苅田港の生み出す経済力がここにあります．

苅田港は，新松山地区の岸壁が完成間近となっており，新たなステージを迎えることとなります．現場見学会はその熱気を肌に感じていただき，ひとりひとりがこれからの港の未来を，町の将来を描いていくきっかけとなるはずです．

あなたも未来に種蒔く取り組みに参加してみませんか．